

ようろう たき
養老の滝

(日本の昔話)

昔、美濃の国に、年老いた父親と、親思いのむすこがくらしていました。

父親は、お酒が大すきでした。むすこは毎日山で木を切って売り、そのお金でお酒を買ってきました。けれども、まずしくて、いつも少ししか買えませんでした。

ある日、むすこが山の中で、足をすべらせて転びました。ふと見ると、岩の間から流れ落ちる水から、よいかおりがします。

すくって飲んでみると、それはおいしいお酒でした。むすこはよろこんで、毎日その水をくんで帰り、父親に飲ませました。

この話を聞いた天皇は、むすこの親思いの心をほめ、たくさんのおうびをあたえたということです。

1 父親が大すきなものは、何ですか。

2 むすこが、毎日山で木を切って売っていたのは、どうしてですか。

3 岩の間から流れ落ちる水は、何でしたか。

ア ただの水
イ おいしいお酒
ウ くすり

4 天皇がむすこにほうびをあたえたのは、どうしてですか。
